「サナギ」

登場人物

神山　笑花（14）　不登校の高校生
神山　香里（47）　笑花の母
神山　重則（54）　笑花の父

田中　恵（30）　小堀小学校4年2組の担任
矢野　浩二（52）　小堀小学校の校長
矢田　雅美（46）　保健室の先生

戸田　聡志（9）　4年2組の児童
斎藤　雄大（10）　4年2組の児童
黒川　寧々（9）　4年2組の児童
大野　良弥（10）　4年2組の児童

児童A
児童B
児童C
児童D
児童E
児童F
女子生徒A
女子生徒B
男性教師

○神山宅・笑花の部屋（朝）

朝日が差し込んでいる部屋の中、ベッドの毛布が盛り上がっている。

横から仁王立ちでベッドを見下ろしている神山香里（４７）。

毛布の中から、

少女の声「私、絶対行かないからね」

香里「いいじゃない。学校に行けって言ってる訳じゃないんだから」

少女の声「学校じゃん」

香里「（ため息混じりに）屁理屈ばっかり言って。あと１５分で出るからね」

部屋を出ていく香里。

そっと毛布から顔を出す、神山笑花（１４）。

起き上がり、眩しそうに窓の外を見る。

列になって登校している小学生達の姿。

突然、部屋の扉が開く音。

パッと振り返る笑花。

扉から顔を覗かせている香里。

香里「校長先生に挨拶に行くからやっぱあと
１０分！」
閉まる扉。
勢いよく毛布を被る笑花。

○小堀小学校・校庭
木の葉に緑色のサナギがくっ付いている。

○同・校長室
ソファーに座っている笑花と香里。
向かいには矢野浩二（５２）と田中恵（３０）が座っている。
香里「無理を聞いていただき、有難うございます」
頭を下げる香里。
矢野「いえいえ、こちらこそ。若い方がいると児童たちも喜びますし」
笑花を横目で見る香里。
ムスっとしている笑花。

香里「田中先生、よろしくお願いします」
恵「はい！（笑花に向かって）４年２組担任の田中恵です。よろしくお願いします。笑花先生」
むせる笑花。
香里「ほら！シャキッとしなさい」
深く座り直し、頭を下げる笑花。
笑花「（小声）よろしくお願いします」

○同・４年２組の教室・外観
扉には「４―２」のプレート。

○同・同・中
前に立っている恵。
恵「今日はみんなにもうすぐやってくる運動会のスローガンについてお話しします」
児童たち、教室の左後ろをチラチラ見ている。
視線の先には緊張して座っている笑花。
教室の右後ろでニコニコして笑花を見

ている香里。

一瞬、香里を睨みつける笑花。

斎藤雄大（１０）、手を上げる。

雄大「絶対リレー１位！」

恵「それは斎藤くんのスローガンね。もちろん一人一人の目標も大切だけど、クラスのスローガンも決めないと」

雄大「みんなリレー１位になりたいよね？」

立ち上がってクラスに問いかける雄大。

リボンをつけて、可愛らしい服装の黒川寧々（９）、

寧々「私、リレー走んないもん」

しょぼくれた様子で座る雄大。

恵「って事で、みんなクラスのスローガンを考えてきてください。思いついたら思いついた分だけこの紙に書いて」

『スローガン案』と書かれた小さい紙を見せる。

恵「ここに」

教卓からダンボールで出来た投票箱を

取り出す恵。

恵「入れてください！わかった？」

後ろの席に座っている大野良弥（10）、

良弥「そんなこと急に言われても思いつかないよ先生」

周囲から同意の声。

恵「んー、じゃあ……」

恵と目が合う笑花、すぐに目を逸らす。

恵「笑花先生、お手本で何かスローガン思いつく？」

一斉に笑花を見る児童たち。

笑花「え……えーっと」

香里をチラッと見る笑花。

小さくがガッツポーズを見せる香里。

笑花「……みんなで力を合わせて……最後まで全力で……頑張ろう……みたいな？」

恵「拍手！」

児童たちも一斉に拍手する。

気まずそうな笑花。

チャイムが鳴る。

児童たち、笑花の周りに集まって来る。

児童Ａ「笑花先生！休み時間だよ！外行こ！」

児童Ｂ「俺も笑花先生と遊びたい！」

児童Ｃ「私も私も！」

嬉しそうに笑花の方を見つめる香里。

あっという間に児童たちに取り囲まれる笑花。

ふと、少し外れたところからこっちを見ている戸田聡志（９）が目に入る笑花。

聡志の服はよれて汚れている。

児童Ａ「早く行こ！」

笑花「（ハッとして）あ、うん。行こう！」

児童たちに連れられ教室を出ていく笑花。

その様子を見ていた恵、香里に近づいて、

恵「早速、人気者ですね」

嬉しそうに笑う香里。

○同・校庭

ジャングルジムに寄り掛かっている笑花。

児童たちと一緒に遊んでいる香里を眺めている。

隣に恵が来て、

恵「（共に香里を見て）あなたのお母さんには毎日助けられているの」

笑花「たかが介助員ですよね。教員免許も持ってる訳じゃないし」

恵「小学生っていろんな子がいるじゃない？ほら、勉強が苦手な子とか、家庭環境に恵まれていない子、急に暴れ出しちゃう様な子もいる」

笑花「不登校とか？」

恵「それもそう。そういううまく周りに馴染めない子に寄り添うのってそんなに簡単なことじゃないと思うよ」

笑花「寄り添うね……」

恵「だからお母さんのこと助けてあげてね。
笑花先生！」
笑花「その呼び方やめてください」
恵「なんでよ。それに私が呼ばなくても」
児童たちが走って来る。
児童Ｂ「笑花先生、いた！あっちで遊ぼ！」
児童たちに連れて行かれる笑花。
微笑ましくそれを見ている恵。

○神山宅・リビング（夜）
テーブルに座って食事をしている笑花、
香里、神山重則（５４）の三人。
神山「笑花、今日も高校行かなかったのか？」
笑花「学校行ったよ」
神山「行ったのか！？」
驚いて香里の方を見る神山。
香里「学校にはちゃんと行ったわよ」
笑花と目を合わせる香里。
神山「そうか。よかった。楽しかったか？」
笑花「普通」

神山「普通って……」
香里「（神山に）食べ終わったなら、お風呂沸いてるから入ってきたら？」
神山「ああ。わかった」
席を立って風呂場に行く神山。
笑花「お父さんには言ってないの？」
香里「あの人は頭が硬いから」
食事を再開する二人。
少しの間沈黙。
香里「今日どうだった？普通はなしで」
笑花「別に」
食器を台所に持っていく香里。
香里「明日は朝早く行くよ」
笑花「え、なんで」
香里「来ればわかるから」
食器を洗い始める香里。
笑花「（ぼそっと）明日も行くとは言ってないし」

○小堀小学校・校庭（朝）

体育着で横一列になっている４年２組
の児童たち。
足は隣同士、紐で結ばれている。
児童たちの前に立っている恵。
恵「いい、みんな？ちゃんと声だすんだよ？
じゃないと絶対合わないから！」
端で見ている笑花。
笑花「うわー懐かしいな」
列の中央付近にいる雄大、
雄大「わかってるよ！早くスタートかけてよ
先生！」
笑花の横に来る恵。
恵「行くよ！よーい、スタート！」
同時にストップウォッチを押す恵。
児童たち「せーのっ、いち！に！いち！に！」
声を合わせて横一列で走って行く。
笑花「はっや！？」
恵「でしょう。この子達なかなかやるのよ」
ゴールラインにあるマットに飛び込む
児童たち。

手元のストップウオッチを見る恵。
恵「惜しい！記録更新まであとちょっと！まだやるよ！」
児童たちのもとへ戻って行く恵。
寧々「もう足痛いんですけどー」
恵「そんなんだと1組に負けちゃうよ！優勝したいでしょ？」
寧々「1組には絶対負けたくない」
恵「さ！やるよ。スタート位置に戻って！」
笑花「スパルタ……」
離れたところで二人で練習している香里と聡志を見つける笑花。
聡志、上手くリズムが合わせられず転ぶ。
笑花「あー……」
恵「戸田くん！おいで！」
不安げに列の一番右端に並び、紐を結ぶ聡志。
笑花の隣に来る香里。
恵「みんな準備はいい？」

児童たち「はーい！」

不安そうな顔でチラッと香里を見る聡志。

笑花「ねぇ」

香里「ん？」

笑花「なんで」

言いかけたその瞬間、

恵「よーい！スタート！」

児童たち「せーのっ！いち！に！いち！」

横一列、声を出して走り出す。

聡志、足が縺れて転ぶ。

右端から崩れていく列。

次々に転んでいく児童たち。

恵「ストーップ！」

列の動きが止まる。

寧々「誰！転んだの！」

ボソボソと聡志に対し文句を言う児童たち。

恵「（空気を読んで）みんな！もう一回やるよ！」

チャイムが鳴る。
文句を言いながら紐を解いてバラバラに校舎に戻っていく児童たち。
恵「（児童たちに）怪我した人いたら教えてね。ちゃんと手洗いうがいして」
下を向いて突っ立っている聡志に駆け寄る香里。
聡志の膝からは血が垂れている。
その様子を見ている笑花。

○同・保健室（朝）
八田雅美（46）の手当てを受けている聡志。
その後ろには香里と笑花が立っている。
雅美「ちょっとしみるかもねー」
傷の消毒をされ痛そうな顔の聡志。
笑花「なんで一緒にやらせたの」
香里「（笑花を見て）？」
笑花「転ぶってわかってたのに」
香里「彼もクラスの一員だからよ」

笑花「だからってあれじゃあまりにも可哀想じゃん。みんなに戦犯みたいに扱われて」

聡志に聞こえないように話す二人。

保健室の扉が開く。

雄大、入って来る。

雄大「先生、俺ちょっと足痛いかも」

雅美「じゃあ、ここ座って」

聡志の横に座る雄大。

雅美「よし！戸田くんはこれでオッケー。絆創膏剥がさないようにね」

聡志「はい」

立ち上がって保健室を出ようとする聡志。

雄大「（聡志に）惜しかったな！」

ニコッと笑いかける雄大。

驚いた表情の聡志。

雄大「（雅美に）早く俺のも治療してー」

雅美「はいはい」

香里「笑花、戸田くんを教室に連れて行ってあげて」

雄大に近づく香里。

香里「斎藤くん、本当に怪我したの？」

雄大「本当だよ！折れてるかも」

香里たちを背に保健室を出ていく聡志と笑花。

○同・トイレ前～廊下（朝）

トイレ前で待っている笑花。

体操着を手に持って出てくる聡志。

聡志の一歩後ろをついて行く笑花。

昨日と同じ服の聡志。

笑花「その服お気に入りなの？」

聡志「ううん、あまりたくさん服持ってないだけ」

笑花「そっか。足もう大丈夫？」

聡志「まだ痛い」

笑花「そうだよね」

聡志の小さな背中を見つめながら歩いている笑花。

○同・４年２組の教室・中

給食の準備をしている児童たち。

児童たちに混ざって楽しそうに話している笑花。

自分の給食を持って席に向かう聡志。

児童Ｄ、わざと聡志に足を引っ掛ける。

たまたまその瞬間を目にする笑花。

笑花「！」

聡志、児童Ｄの足に躓いて転ぶ。

持っていた給食がお盆ごとひっくり返る。

食器の割れる音で静まり返る教室内。

すぐに駆け寄る香里。

香里「大丈夫？」

聡志、顔を上げると目の前に座っていた良弥の服にスープがかかっている。

寧々「あらら」

遠くから心配そうに見ている雄大。

聡志「（立ち上がって）ごめん……」

恵、近寄ってきて、

恵「怪我ない？大野くんも平気？」
いきなり聡志を突き飛ばす良弥。
良弥「ふざけんなよ！」
後ろに倒れる聡志。
恵「やめなさい！」
聡志に寄り添う香里。
良弥「お前なんか邪魔なんだよ。クラスに要らないから」
恵「いい加減にしなさい！言って良いことと悪いことがあるでしょ」
聡志「（俯いて）ごめん……ごめん……」
見ていることしかできない笑花。

○同・同・中（夕）
ランドセルを背負っている児童たち。
児童たち「さようなら」
恵「はい、さようなら。気をつけて帰るんだよー」
一人で帰っていく聡志。
ボーッと聡志を見ている笑花。

○帰り道（夕）

自転車を押して歩いている笑花と香里。

何か考え事をしている様子の笑花。

香里「気になる？戸田くん」

笑花「え？」

香里の顔を見る笑花。

笑花「いや別に」

香里「彼、転校して来たばかりでね。まだクラスに馴れていないというか」

香里「無力だよね。先生とか。介助員なんてもっと」

香里「そうかもね」

沈黙。

前から楽しそうに女子高生たちが歩いてくる。

女子高生たちに気づく笑花、自転車に乗る。

笑花「先帰る」

先に行ってしまう笑花。

香里「買い物してから帰るからー！」

笑花の背中を見つめている香里。

○神山宅・リビング（夜）

一人、アルバムを見ている香里。

パジャマ姿の笑花、キッチンに来て冷蔵庫に向かう。

香里「あら、まだ起きてたの」

笑花「何見てんの？」

お茶を入れたコップを持って香里の方に来る笑花。

香里「笑花が小学生の時のアルバムよ」

笑花「なんで今更」

香里「アルバムってそういうもんでしょ？」

香里の横に立って一緒にアルバムを見る笑花。

楽しそうに笑っている児童たち、中には笑花の姿もある。

ページをめくると運動会の様子の写真。

香里「あ！ねぇ、見てこれこれ」

笑花に見せる香里。
笑花「嫌だよ、恥ずかしい」
部屋に戻ろうとする笑花。
笑花「明日早く起こして」
香里「え？良いけど」
部屋に戻っていく笑花。
香里「おやすみ……」
首を傾げる香里。

○小堀小学校・校庭（朝）
笑花と聡志、足を紐で結んでいる。
笑花「せーのっ、いち！に！いち！に！」
走り出す二人。
リズムが合わず転倒する聡志と笑花。
笑花「もう一回やろう」
練習している二人を遠くから見ている
香里と恵。
恵「何かあったんですか？」
香里「さぁ？」
首を傾げながらもどこか嬉しそうな香

里。
手前には一列に並んで準備万端の４年２組の児童たち。
児童たちの正面に立つ恵。
恵「合同練習まであとちょっと！みんな頑張ろう！」
児童たち「おー！」
羨ましそうに児童たちを見ている聡志。
笑花「まだ練習する？」
無言でうなずき、紐を結び直す聡志。
笑花「よし！頑張ろう」

○同・校庭
休み時間、外で遊んでいる児童たち。
足を紐で結び、練習をしている笑花と聡志。
サッカーをしていた良弥、ふと笑花と聡志が目に入る。
立ち止まってボーッと二人を見ている良弥。

良弥のところにボールが来る。
サッカーを再開する良弥。
笑花「結構上手になってきたんじゃない？」
黙っている聡志。
笑花「どうしたの？」
聡志「なんで、僕に優しくしてくれるの？」
笑花「（考えて）同情かな」
聡志「ドージョー？」
笑花「そう、同情」
聡志「それって良いこと？」
笑花「多分、悪いこと」
チャイムが鳴る。
笑花「戻ろっか」
紐を解いて校舎に戻る笑花。
笑花の背中をじっと眺めている聡志。
少しして小走りで笑花に追いつく聡志。

○同・４年２組の教室（夕）
ランドセルを背負って教室を出て行く
児童たち。

児童たち「笑花先生、さようなら！」
笑花「さようならー、また明日ね」
香里、笑花のところに来て
香里「今日ちょっと会議があるから
先帰っていいよ」
笑花「会議？」
香里「（自慢げに）一応、先生だから」
笑花「あっそ」

○帰り道（夕）
自転車に乗って帰っている笑花。
交差点で止まる。
向かいには女子高生たちがいる。
さりげなく口元を隠し、目を合わせないようにする笑花。
信号が青になり、女子高生達とすれ違う。
交差点を渡り切ったあと、振り返って女子高生たちを見る笑花。

○高校前（夕）

自転車を道路脇に止め、高校を覗き見ている笑花。

門から5、6人の生徒たちが出てくる。

すぐに隠れる笑花。

楽しそうに帰って行く生徒たちを隠れながら見ている笑花。

壁にもたれてしゃがみ込む。

○小堀小学校・外観（朝）

児童たちの掛け声が聞こえる。

○同・校庭（朝）

一列になってスタートの準備をしている4年2組の児童たち。

児童たちの前に立っている恵、端で練習している聡志に向かって、

恵「戸田くん！今日、混ざってみない？」

聡志、隣の笑花を見る。

笑花「行かなくても良いんだよ？」

笑花との紐を解き、列の右端について
紐を結ぶ聡志。
横で見ていた香里の隣に立つ笑花。
恵「よーし！明日の合同練習に向けて最後だよ！みんなで息合わせて！」
心配そうに見ている香里と笑花。
恵「よーい！スタート！」
児童たち「せーのっ、いち！に！いち！に！」
走り出す児童たち。
少しして、足が縺れて転ぶ聡志。
右端から次々に転んでいく児童たち。
列の動きが止まる。
良弥「先生、これじゃゴールも出来ないんですけど」
恵「みんなもう一回やろ！」
重い空気が漂い、やる気のない児童たち、ダラダラとスタート位置に戻り並び直す。
笑花「恵先生」
恵「ん？」

何かいいたそうな笑花。

恵「？」

×　×　×

児童たちの方に向かって行く笑花。

不思議そうに笑花を見ている香里と児童たち。

雄大の前に立つ笑花。

雄大「？」

雄大を聡志の左隣に割り込ませる笑花。

雄大「俺ここ！？」

笑花「一回！これでやってみない？歩幅が合うと思うんだけど」

雄大「良いけど」

不思議そうに笑花を見る聡志。

雄大「（紐を結び）先生！スタートかけて！」

恵「みんな準備いい？行くよ！よーい！スタート！」

児童たち「せーのっ！いち！に！いち！に！」

綺麗に横一列走っていく児童たち。

恵「（ボソッと）はやい」

ゴールまであと5メートルほどのところで転ぶ聡志。
列が徐々に止まっていく。
恵「惜しい！今のペースだったら新記録出てたよ！」
驚いた顔で聡志の足元を見ている雄大。
聡志「ごめん、また転んじゃった」
雄大「（首を横にふる）あと少しだよ！」
聡志「うん」
嬉しそうな聡志の表情。
笑花、聡志に駆け寄る。
笑花「今の良かったじゃん！」
聡志を冷たい目で見る良弥。

○同・職員室・中
自分のデスクに座っている恵。
窓の外から、笑花が児童たちと楽しそうに遊んでいるのが見える。
手元の道徳の教科書を見る恵。

○同・４年２組の教室・中

道徳の教科書を机に置いて座っている児童たち。

前に立っている恵。

恵「今日の道徳の授業は」

黒板に何か書き始める恵。

黒板をじっと見る香里、笑花、児童たち。

書き終わり、振り返る恵。

「自分らしさ」と書かれた黒板。

恵「みんなが思う自分らしさって何だと思う？」

考える児童たち。

「顔！」「性格！」「得意な事！」と児童から様々な声が上がる。

恵「そうだね。じゃあ『自分の自分らしさはこれだ！』って思い浮かぶ人いる？」

雄大「足が速い！」

恵「なるほどね。他には？」

寧々「可愛い」

恵「いいねぇ。って事でみんなには」
児童たちにプリントを配り始める恵。
恵「『自分ってこうだな』って思うことを出来るだけたくさん書いてください」
笑花にもプリントを渡す恵。
『自分らしさって何だろう』と書かれたプリントを見つめる笑花。
恵「後で発表してもらうからね。わかった？」
児童たち「はーい」
書き始める児童たち。
恵と目を合わせる香里。
何か言いたそうな香里の表情。
恵「（目を逸らして）さ！みんなどんどん書いてねー」
×　×　×
立って発表をしている児童E。
児童E「あとは、ちょっと恥ずかしがり屋なとこです」
座る児童E。
恵「拍手！」

拍手する児童たち。

恵「じゃあ次はその後ろの戸田くん。発表してくれる？」

無言でそっと立ち上がる聡志。

ずっと俯いている聡志。

心配そうに聡志を見る笑花と香里。

恵「戸田くん？どうした？」

隣の児童Cが聡志のプリントを覗き見る。

児童C「戸田くん、何にも書いてない！」

聡志のプリントを見に来る恵。

恵「そっか……じゃあ、代わりに！戸田くんの戸田くんらしいなって思うところがある人！手上げて！」

児童たちに問いかける恵。

誰も手を上げず、静まり返る教室内。

スッと手を上げる良弥。

一瞬、戸惑った様子の恵。

恵「じゃあ大野くん」

良弥「はい」

立ち上がる良弥。

良弥「たくさんあるんですけどいいですか？」

恵「いいけど……」

教室中が良弥に注目する。

良弥「いつも同じ服ばっかり着ている。全然喋らないし友達もいない。勉強も運動も大して出来ないし、面白くもない」

恵「大野くん、やめなさい」

喋り続ける良弥。

良弥「笑花先生にひいきされて調子乗ってる」

恵「やめなさい！」

俯いている聡志。

聡志を心配そうに見る笑花。

恵「戸田くん」

聡志に近づく恵。

聡志「うぁーーーー！！」

突然叫び出し、恵を突き飛ばす。

香里「戸田くん！」

そのまま良弥に掴みかかり押し倒す聡志。

散乱した椅子や教科書、野次を飛ばす
児童、聡志を引き剥がそうとする児童。
パニック状態の教室内。
止めに入る香里。
驚いて見ているだけの笑花。
寧々「笑花先生も止めて！」
笑花「（ハッとして）あ！うん」
止めに入る笑花。
残された笑花のプリントも白紙。

○同・職員室（夕）
座って作業をしている恵。
職員室に入ってくる香里。
香里「田中先生、大丈夫でしたか？」
恵「大丈夫です！すいません、あんな事になちゃって……」
香里「いえいえ、こちらこそすいません」
恵「何で神山先生が謝るんですか……情けないです……」
香里「田中先生、あの授業ってもしかして…

…」

○同・職員室ベランダ（夕）

ベンチに座っている香里と恵。

恵「余計なお世話でしたよね」

香里「そんなこと……」

恵「実は私も経験あるんです」

香里「え？」

恵「高校時代、自分の良さ？っていうか存在する意味みたいなのが分からなくなってしばらく学校に行けなかった事が」

香里「田中先生……」

恵「でも別にあっていいと思うんです。そういうサナギみたいな時期って誰にでもあると思ってて……なんですけど……」

頭を抱える恵。

恵「人生って全然、うまくいかないですね」

香里「（笑って）そうですね」

笑う香里を不思議そうに見る恵。

香里「でも、田中先生は良い先生だと思いま
すよ」
恵「いやそんな……」
香里「４年２組の介助員としてではなく、人
生の先輩として。そう思います」
ちょっと照れ臭そうな恵。

○下駄箱（夕）
ランドセルを背負って歩いて来る良弥。
頬には絆創膏を貼っている。
聡志の下駄箱にゴミを入れている児童
D、児童F。
良弥に気づく二人。
児童D「お！良弥。アイツの下駄箱にゴミ入
れてやったよ」
軽蔑したような目で二人を見る良弥。
良弥「（舌打ち）」
二人に肩をぶつけて一人で帰って行く
良弥。

○神山宅・リビング（夜）

重い空気の中、夕飯を食べている笑花と香里。

香里「介助員って意外と大変でしょー」

無言の笑花。

笑花「（食べるのをやめて）あのさ」

香里「ん？」

笑花「なんで私に介助員なんてやらせたの？」

香里「（冗談っぽく）それは、笑花にお母さんの大変さをわかってもらうためよ」

勢いよく箸を叩きつけ、立ち上がって部屋に戻っていく笑花。

入れ替わりで来た、半裸姿の神山。

ため息をつき頭を抱える香里。

重たい雰囲気を感じとる神山。

神山「（小声で）風呂上がりました」

○小堀小学校・外観

○同・４年２組の教室

体育着を着て座っている児童たち。
前に立っている恵。
恵「今日は合同練習の日です。まだ本番ではないけどみんな頑張ろうね」
児童たち「はい！」
恵「じゃあ校庭で集合！」
ゾロゾロと教室を出て行く児童たち。
笑花も児童に囲まれ楽しそうに教室を出て行く。
元気がない様子の聡志、一人で教室を出て行く。
聡志を心配そうに見る香里。

○同・校庭
他のクラスの児童たちも大勢いる。
男性教師「1組！よーい、スタート！」
綺麗に一列で走り抜ける4年1組の児童たち。
後ろで見ている4年2組の児童たち。
寧々「うっわ、はやい」

隣にいた笑花、

笑花「きっとみんなの方がはやいよ」

寧々「それは知ってるけど」

笑花に近寄って来る雄大。

雄大「ねぇ、笑花先生」

笑花「ん？どうした？」

雄大「聡志がいない」

笑花「え？」

周りを見渡す笑花。

聡志の姿はない。

校舎から慌てた様子で出て来る香里。

遠くにいる恵と何か話している。

笑花「ちょっと待っててね」

恵と香里がいるところに走って行く笑花。

顔を見合わせる雄大と寧々。

○同・廊下

走っている恵。

恵「戸田くーん！」

○同・校舎裏

塀の外を確認する香里。

香里「どこ行っちゃったのよ」

○同・体育館～体育倉庫

ひっそりとした誰もいない体育館を覗き込む笑花。

奥の体育倉庫の扉が若干開いているのに気づく。

近づいてそっと覗く。

中にはじっと体育座りをしている聡志。

聡志、笑花に気づく。

○同・体育館

ステージの上に座っている聡志と笑花。

笑花「みんな待ってるよ」

聡志「僕がいたらまたゴール出来ないから」

前を向いて話し出す笑花。

笑花「私も昔ここの小学校に通ってたの。ま

ぁ昔って言っても4、5年くらい前なんだけど」

笑花を見る聡志。

笑花「いつもふざけてばっかりでみんなを笑わせるのが好きだった。でも高校に入ってから、なんかクラスのみんなと上手くいかなくて」

じっと聞いている聡志に向かって、

笑花「ごめんね、こんな話」

首を横にふる聡志。

笑花「それで嫌われないようにする事だけを考えて振る舞うようにした。そしたら行けなくなっちゃった。高校」

聡志「何で？」

笑花「自分が自分じゃないような気がしてきて。それに耐えられなくなったの」

聡志「自分が自分じゃない……」

笑花「だから、戸田くんには私みたいになって欲しくないっていうか……自分を大切にしてほしい」

聡志「それは同情？」
笑花「んー、心からの願望……かな」
聡志「でも僕、クラスのみんなに嫌われてるし」
笑花「そんなことないと思うよ」
聡志「え？」
笑花「（体育館の入り口に向かって）そこにいるんでしょ！見えてるよ！」
雄大と寧々、顔を出す。
雄大「バレてたか」
寧々「あんたが顔出しすぎだからよ！」
言い合っている二人。
驚いた表情の聡志。
寧々「（聡志に向かって）っていうか、早く来なさいよ！あんたがいないと全員揃わないんだけど！」
雄大「俺も隣に聡志いないとやる気出ない！」
聡志「でも僕また転んじゃうし……」
走って体育館に入って来る良弥。
驚いた様子の笑花。

寧々「（良弥に）何してんの？」
良弥「（照れ臭そうに）いや……みんな探してるから……」
雄大「良弥も聡志探しに来たの！？」
良弥、聡志と目が合う。
良弥「なんか文句あるかよ」
雄大・寧々「へ～」
笑花「みんな！行こう！」

○同・校庭
足に紐を結び一列に並んでいる４年２組の児童たち。
前に立つ恵。
恵「みんないい？落ち着いてリズム合わせてね」
児童たち「はい！」
聡志も勢いよく返事する。
男性教師「よーい！スタート！」
児童たち「せーのっ！いち！に！いち！に！」
横一列で走る児童たち。

笑花「いけっ！」
そのままゴールする。
恵「やった！」
手元のストップウォッチを見る。
恵「記録更新！」
隣の笑花と香里に見せる。
香里「すごいみんな！」
恵「やっぱあの子達最高です！」
ゴール付近で喜び合っている児童たち。
嬉しそうな聡志を見つめている笑花。

○神山宅・笑花の部屋の前～中（朝）
扉をノックする香里。
香里「準備出来た？もう行くよ」
扉を開ける香里。
中には高校の制服を着た笑花の姿。
香里「（驚いて）笑花……」
笑花「今日は高校行ってみる」
香里「……そう。気をつけて行っておいで」
笑花「うん」

○高校前（朝）

ゾロゾロと学校に向かって歩いている生徒達。

緊張した様子で歩いている笑花。

横を歩いている女子生徒二人組。

女子生徒Ａ「え？あれうちのクラスの子じゃない？」

女子生徒Ｂ「あんな子いた？」

女子生徒Ａ「全然学校来てない子」

女子生徒Ｂ「あー」

ヒソヒソ話している女子生徒達。

俯きながら学校に入って行く笑花。

○小堀小学校・４年２組の教室

算数の授業中。

後ろに座っている香里。

ソワソワして時計を気にしている。

○高校・女子トイレ

便器に座って頭を抱えている笑花。

○神山宅・笑花の部屋・中（夕）

ベッドの毛布が盛り上がっている。

香里の声「笑花、入るよ」

そっと扉を開けて入る香里。

香里「（優しく）どうだった？学校」

笑花の声「お母さん」

香里の声「ん？」

笑花の声「私は出来損ないの娘でしょ」

香里「何言ってるのよ」

笑花の声「だから介助員なんてやってるんでしょ。娘はもうどうしようもないからって、他人の子供の面倒みてさ」

香里「そんなわけないでしょ？」

笑花の声「私だけ、何も変わらないし変われない。いつまで経っても」

香里「変わってるじゃない」

毛布をめくろうとする香里。

突然、バっと毛布がめくれる。

笑花「変わってない！臆病で自分の学校にも
行けないし、また逃げてきた！」
目が潤んでいる笑花。
香里「笑花……」
笑花を抱きしめようとする香里。
笑花「出てって！」
泣きながら、香里を突き放す笑花。
またすぐに毛布に潜り込む。

○同・同・前（夕）
扉をゆっくり閉め、寄りかかる香里。

○小堀小学校・４年２組の教室
授業を受けている児童たち。

○神山宅・笑花の部屋
ベッドの毛布が盛り上がっている。

○小堀小学校・校庭
体育着をきて熱心に競技の練習をして

いる児童たち。

○同・４年２組の教室（夕）

ランドセルを机の上に置いている児童たち。

前に立っている恵、

恵「みんな風邪ひかないようにちゃんと帰ったら手洗いとうがいするようにね」

返事をする児童たち。

雄大「先生！笑花先生はもう来ないの？」

恵「笑花先生は……」

戸惑っている様子の恵。

良弥「確かに、一週間くらい来てないですよね」

ざわざわし始める教室内。

後ろに座っている香里、

香里「笑花先生は今ちょっと体調崩しちゃって」

寧々「また来るよね？」

言葉に詰まる香里。

心配そうな顔で香里を見つめる児童たち。

香里「うん、きっと来ると思うよ」

空席になっている笑花の席を見る聡志。

恵「帰りの挨拶！」

○小堀小学校・外観（夕）

児童たちの声「さようなら！」

○神山宅・笑花の部屋・中（夜）

そっと扉を開けて入ってくる香里。

机の椅子をベッドの横に移動させ座る香里。

香里「いつまで寝てんのよ」

ベッドの毛布が盛り上がっている。

香里「笑花が小学校の時も３０人３１脚あったよね。あなたリーダーなのにスタートしてすぐ紐解けちゃってさ。しかも両足。そんなことある？」

笑いながら話している香里。

香里「結局諦めて一人だけ周りに手振りながらゴールしたもんね」

じっと動かない毛布の膨らみ。

香里「お母さん、笑花の笑顔がどうしても見たかったの。子供たちと遊んでる時の笑花は本当に楽しそうで嬉しかった。高校なんて行きたくないなら行かなくていい」

目が潤んでくる香里。

香里「ただ笑花が笑花らしくいてくれればそれだけでいい。あなたはお母さんのたった一人の娘なの。大事な自慢の娘なの」

目元をサッと拭う香里。

香里「あんまり寝すぎると本当にサナギになっちゃうよ」

立ち上がって電気を消し、部屋を出てそっと扉を閉める香里。

暗闇の中、毛布が少し動く。

○小堀小学校・校庭（朝）

校舎に向かって指示を出している恵。

恵「もう少し右です！はい！オッケーです」
満足げに校舎を見上げている恵。
○神山宅（朝）
閉まっている笑花の部屋を見つめた後、
家を出ていく香里。
○小堀小学校・校庭
椅子がズラーっと並んでいる。
保護者や児童が大勢いて盛り上がって
いる様子。
実況をしている子供の声が響いている。
実況の声「さあ！４年生の３０人３１脚！次
は白組の４年２組です！」
スタート位置に並んでいる４年２組の
児童たち。
緊張している様子の児童たちを見て、
前に立っている恵、
恵「みんな落ち着いて！声出して、今まで通
りに！」

児童たち「はい！」
端っこの聡志、後ろにいる香里を見る。
黙ってうなずく香里。
男性教師「位置について！よーい！スタート！」
スターターピストルの音と同時に、
児童たち「せーの！いち！に！いち！に！」
横一列で駆け抜ける。
実況の声「おー！４年２組も速い！」
恵「頑張れ……」
ゴールのマットに飛び込む児童たち。
実況の声「さあ！タイムは！」

○神山宅・笑花の部屋
ベッドから起き上がって部屋を出ようとする笑花。
机に上に何かを見つける。
『起きたならちょっと顔だけ出しにでも来たら？』と書かれたメモ。

○小堀小学校・校門付近

隠れるようにして門から入ってくる笑花。

後ろから、

良弥の声「笑花先生？」

振り返ると良弥の姿。

○同・校庭・観客席側

しゃがんでいる良弥と笑花。

笑花「そうなんだ、惜しかったね」

良弥「まぁでもまだ負けたわけじゃないよ」

笑花「え？」

良弥「最後のリレーがあるからね」

実況の声「最後は４、５、６年生のクラス対抗リレー！」

良弥「みんなリレーなんて興味なかったのに、見てほら」

遠くの４年２組の児童たちを見る笑花。

○同・同・４年２組の応援席

立ち上がっている児童たち。
寧々「（大声で）４年２組――！！絶対負けんなー！」
他に児童たちも大声で応援している。
寧々「（後ろに向かって）あんたたちもっと声出しなさいよ！」

○同・校庭・観客席側
笑う笑花。
笑花「あれ？大野くんってリレーのアンカーじゃなかった？」
良弥「うん、だけど」
包帯が巻かれた右足を指差す良弥。
良弥「俺はさっきの競技で怪我したから出れない。代わりに」
中央で整列しているリレーメンバーを見る良弥。
良弥「聡志が出る」
笑花「え！戸田くんってリレーメンバーだったっけ？」

良弥「もう始まるよ」

立ち上がる良弥と笑花。

スターターピストルの音。

第１走者が走り出すと同時に会場全体が一斉に盛り上がる。

○同・同・４年２組の応援席

最前列で椅子に立っている寧々。

寧々「いけーー！５、６年なんかに負けんな！！」

○同・同・本部

立って見ている香里と恵。

恵「頑張れ、みんな」

祈るように見ている恵。

競技を見ながらも、何か周りを見て探している様子の香里。

○同・同・トラック中央付近

次々にバトンが渡っていく。

緊張している様子の聡志。
聡志に近づく雄大。
雄大「聡志ならいける！」
聡志「うん」

○同・同・観客席側
食い入るように見ている良弥と笑花。
良弥「くそっ、まだ４位」
笑花「やっぱ５、６年生速いね」
良弥「雄大が言ってたんだ」

○同・同・トラック内
バトンを貰い走り出す雄大。
良弥の声「聡志は運動ができないから３０人
３１脚であんなに転んでたんじゃない」
１人抜く雄大。
実況の声「おっと！４年２組、ここで３位！」
良弥の声「聡志は……」
雄大から、聡志にバトンが渡る。
良弥の声「足が速すぎるんだって」

グングン、前との距離を縮めていく聡志。

実況の声「４年２組、アンカー速い！」

１人を抜く聡志。

ゴールまであと半周。

１位の児童に迫る聡志。

○同・同・観客席側

良弥「いける！」

○同・同・４年２組の応援席

男性教師の肩に乗っている寧々。

寧々「抜いちゃえーー！！」

○同・同・トラック中央付近

雄大「頑張れ！聡志ーー！！」

○同・同・ゴール付近

ゴールまであと数メートル。

一位の児童と聡志が並ぶ。

○同・同・観客席側
前に飛び出る笑花。
笑花「いけーーー！！」
力いっぱい叫ぶ笑花。

○同・同・ゴール付近
ギリギリの差で聡志が１位でゴールする。
実況の声「なんと！１位は、４年２組！」
聡志のもとに駆け寄る４年２組の児童たち。
雄大「やったな！」
寧々「なかなかやるじゃない」
聡志「あ！」
聡志が指差した方向から、良弥をおんぶして走って来る笑花。
良弥「みんな！すげーよ！」
笑花「１位おめでとう！」
笑花に抱きつく４年２組の児童たち。

少し離れたところでニコニコして笑花を見ていた聡志も駆け寄って来る。

聡志「笑花先生！」

聡志の頭を優しく撫でる笑花。

○同・同・本部

感動して泣いている恵。

恵「やっぱり、あの子達最高です」

恵の肩をさする香里。

恵「やっぱり来てたんですね。笑花ちゃん」

香里「みたいですね」

児童たちと喜んでいる笑花を嬉しそうに見つめる香里。

○同・同・ゴール付近

本部の香里たちに気づく笑花。

笑花に向かって校舎を指差す恵。

ズラーっと窓から吊るされているクラスのスローガン。

その中で『自分らしく！全力で！』と
書かれている４年２組のスローガン。
笑花「みんな、ありがとう」
再び児童たちと喜びあう笑花。

○神山宅・笑花の部屋（朝）
机の上に４年２組からの寄せ書きが立
てかけられている。
ど真ん中にはスローガン案の用紙。
綺麗な字で「自分らしく！全力で！」
と書かれている。

○神山宅・玄関（朝）
スーツ姿の神山、扉を開けて待ってい
る。
その手前で制服姿の笑花、革靴を履く。
神山「やっぱ、笑花は制服が似合うな」
笑花「（照れて）うるさいな」
笑花、振り返る。
笑花「行ってきます」

心配そうに笑花を見つめる香里。

笑花「もう大丈夫だから」

ニコッと笑って見せる笑花。

香里「行ってらっしゃい」

扉が閉まる。

○小堀小学校・校庭

木の葉にくっ付いている緑色のサナギから、綺麗なモンシロチョウが空へ飛び立っていく。